

コラボレーション型ソフト コラボノート

ジェイアール四国コミュニケーションウェア（以下JR四国コムウェア）が開発したコラボレーション型ソフトウェア「コラボノート」が多方面から高い評価を得ている。資料作成が簡単で操作性も良く、さらに情報共有化機能も充実と、使い勝手の良さが最大の特徴といえる。JR四国では、このソフトをヒヤリハット報告に導入したのに続き、グループ間の連絡ツールとして、今年6月稼働予定の「新JR四国グループネット」の基幹ソフトに採用することにした。コラボノートの概要とJR四国での活用方を紹介する。

JR四国 新グループネット 基幹ソフトに採用

JR四国コムウェアは、1990年(平成2年)2月、ソフトウェアを販売する「四国ライン」として設立。2002年、現社名に変更。97年に教材作成支援ソフト「イントラパッケージ」を開発し、その後も中学校向けのソフト開発を中心に成長してきた。

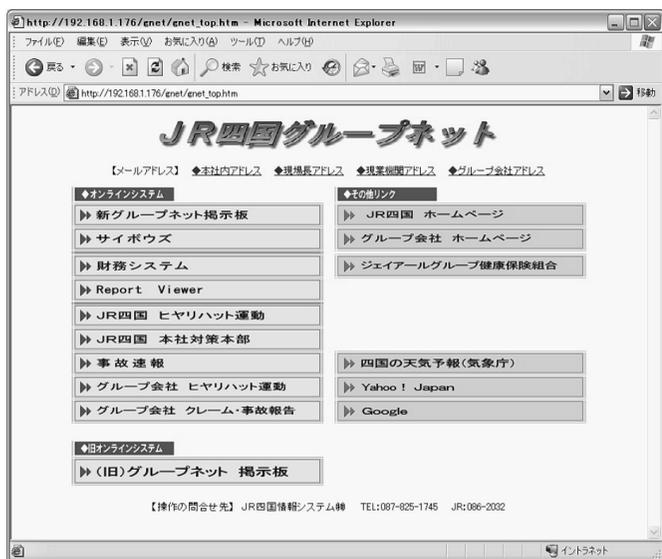
なつて全国の学校で支持され、パソコンアッパした「イントラパッケージ」や同時共同編集が売りの「わいわいレコーダー」「コラボノート」などを含め、同社のソフトは約8000校で導入され、全国の子もたちにも利用されている。教育現場で実績を誇る同社が、一般企業向けの「コラボノート」を販売開始したのが2006年秋。同時共同編集ができる

という基本性能に加え、承認、閲覧と返信、携帯電話対応などの業務プロセス機能を持たせ、セキュリティを強化して企業活動に役立つ製品として、同時にこれを使うことで社内での動きを俯瞰(ふかん)でき、内部統制を支援するツールとしても高い効果を出せるようになった。

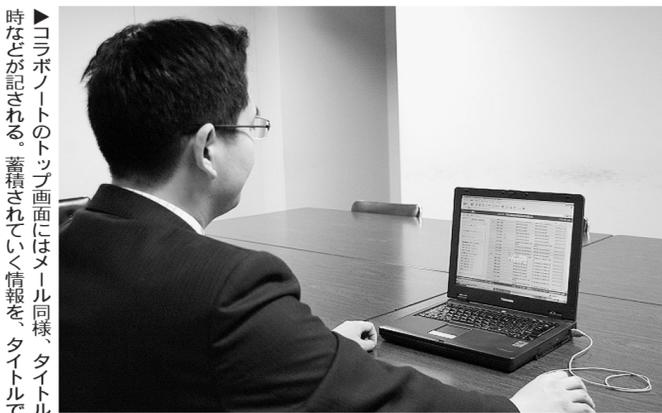
簡単な、ワープロ感覚でコメントを書き、ボタン一つで画像を張り付けられる。登録した資料は即座にデータベース化され、タイトルや本文中の語句などで検索できる。部内限定や自分だけが見られる文書といったように、登録時に公開範囲を指定するなどの機能を有する。範囲が柔軟に設定できるのも特徴。テーマに参加者を決め、検討内容を書き込んでいく電子会議の操作は教育用と同じく

び出し、入力用のマウスを作成してそこに情報を入力してあげれば、その日の報告書が完成するというものだ。JR四国は2007年4月、ヒヤリハット対象の報告にコラボノートを導入した。当初はヒヤリハットに限定していたが、2008年以降は台風時の対策本部の会議内容公開などにも活用範囲を広げた。

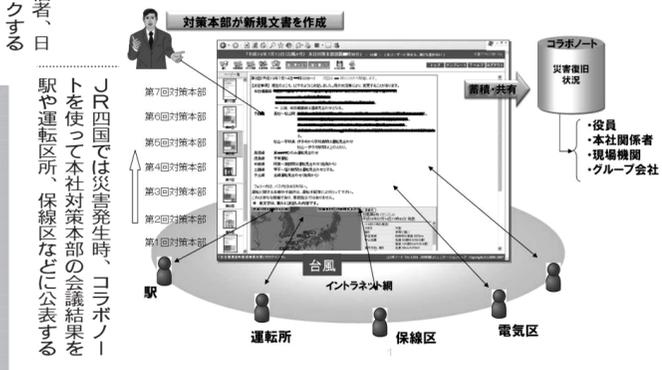
そのコラボノートを、JR四国は6月稼働予定の「新JR四国グループネット」の基幹ソフトとして採用することにした。導入範囲は、本社と各現場機関、グループ会社25社全社。現在のグループネットは、同じJR四国コムウェアの教育用ソフト「イントラパッケージ」をベースに、2001年に立ち上げたもの。社内メールアドレス帳などとして使われるほか、通達や事務連絡、規程類など全社共通の情報や、いわばグループ内の掲示板の役割を果たしている。部内マニアルなど、本社マニアル管理者が他部署の閲覧を制限するものもあるが、基本的には全員が同じ情報を見る格好。



新JR四国グループネットのトップ画面(作成中のイメージ)



災害復旧対策に活用(台風災害の場合)



JR四国では災害発生時、コラボノートを本社対策本部の会議結果を駅や運転区所、保線区などに公表する

また、社内会議(のりんぎ)書のワークフローや会議室の予約機能など、現在他社のソフトを使っているものも、来年度中にコラボノートを使う形にしていこう。

JR四国では今後、ネットワーク接続対応パソコンがあればどこからでも閲覧、書き込みができるコラボノートの機能を活かし、ワーキンググループなどのミーティングや議事録作成、提案活動やプロジェクトの進捗管理などの活用も期待している。



コラボノートのトップ画面、閲覧できる文書一覧が表示され、新規文書には「NEW」、更新された文書には「UP」の文字が付き、最新の文書が一番上に繰り上がる。

JR四国は2006年8月に「ヒヤリハット運動」をスタート、翌2007年4月から、事業の報告にコラボノートを活用している。当初は職場に目安箱を設置し、ヒヤリとした事象があった場合に手書きで記入して入れてもらい、それを管理者が報告書に取りまとめて本社に送っていた。しかし、事象発生から報告が届くまで、あるいは届いてから安全推進室で概要をまとめて時間がかかっていた。

現在は、社員から報告を受けた管理者らがその内容と解決策をコラボノートに入力する。対策があっても職場単独で実施できない場合、あるいは解決策が見つからない場合は本社に依頼する。報告は全体に公開され、各職場で管理者らが内容を確認し、解決策のアドバイスや、過去に発生した同様の問題の対処などを書き込む。また、同じ問題が発生する可能性がある事象が掲載された場

合、印刷して職場内の掲示板に張り出すなどして注意喚起する。報告書の形式も、当初は所属や発生頻度、簡単な概要などを記入する欄のみだったが、2008年に発生時の天候や報告者の経験年数、体調、心理状態などを記入する欄を追加、より細かく分析できるようになった。

最近では安全推進室が月1回程度のペースで、これまで発生した事象の例や傾向などをまとめた「ヒヤリハット通信」を発行、各職場で掲示しているそうだ。現在、報告件数は年間500件程度。このうち安全に関する意見を述べたものは4%ほどで、ほとんどをヒヤリハット体験の報告が占めている。安全推進室では、「事故を未然に防ぐには、日々の業務の中に潜む危険に気付く力が大切。ヒヤリハット運動を高度化させ、危険を予測する力を養って安全に関する意見をどんどん出してほしい」と話す。

コラボノートはJR四国のほか、JRグループの関係会社や一般企業など徐々に採用企業が増えてきた。その理由として、エクセルなど表計算ソフトを使い、統計を取ることが簡単になる。このほか、申請などの文書を作成して上司に送り承認をもらう機能、文書指定した人に順番に見てもらえる閲覧機能、文書を担当者の人数分だけ複製し、各担当者それぞれに情報やり取りができる返信機能などがある。多くはオプションで、使用するに別し込みが必要になる。

導入企業が使い工夫。ウエア社長は「開発した私どもが思いも寄らないような使い方をされている企業もある」と話す。実際、支社担当者や現場スタッフの意見を交えて画面で商品の審査を行った上で、プロジェクトの行程を管理したりという企業もあるそうだ。同社は使い方の参考として、導入先企業の「コラボノート通信」を発行。パシオンアップ情報だけでなく、ユニークな使い方をしている企業の様子や、他社でも使えそうなテンプレートなどを紹介し、一層の活用方法拡大に役立ててもらっているという。

「模造紙をインターネットで共有する」というシンプルな発想から生まれたコラボノート。既存の書類をスキャンしてテンプレートとして利用できる機能や、承認、閲覧、返信依頼などの業務プロセス制御機能、そして、書類フォーマット上でのデータ入力&CSV出力機能など、業務の効率化に大きな効果を発揮する機能を搭載しました。

紙の発想だからこそ、誰にでもわかりやすく、そして、適用業務は無制限です。

あなたの業務のスピードアップやコストダウンに、そして内部統制のサポートツールとして、今すぐ、コラボノートをお役立てください。

60日間 無料体験 コラボノートの凄さを体験したい方は、今すぐアクセス! ホームページ コラボノート 検索 フリーコール 0120-999-687 (固定電話専用)

コミュニケーション創造企業 株式会社 ジェイアール四国コミュニケーションウェア 本社:香川県高松市浜ノ町8番24号 教育用ソフトウェア開発・販売10年の実績・全国公立小中学校約8,000校導入 ※2009年2月1日現在

ヒヤリハット運動を導き、報告の迅速化に役立つ

新機能で広がる活用シーン

SV作成機能もある。指定した欄に記入しておけば、売上げやアンケートの回答などを一括で出力できるため、エクセルなど表計算ソフトを使い、統計を取ることが簡単になる。

導入企業が使い工夫

ウエア社長は「開発した私どもが思いも寄らないような使い方をされている企業もある」と話す。実際、支社担当者や現場スタッフの意見を交えて画面で商品の審査を行った上で、プロジェクトの行程を管理したりという企業もあるそうだ。

また、社内会議(のりんぎ)書のワークフローや会議室の予約機能など、現在他社のソフトを使っているものも、来年度中にコラボノートを使う形にしていこう。

JR四国では今後、ネットワーク接続対応パソコンがあればどこからでも閲覧、書き込みができるコラボノートの機能を活かし、ワーキンググループなどのミーティングや議事録作成、提案活動やプロジェクトの進捗管理などの活用も期待している。

紙の発想だからこそ、誰にでもわかりやすく、そして、適用業務は無制限です。